

森の耳「アバラ骨」

月のない夜

森は縦も横もないほど真暗で

早く蒲団に入り

寝るしかてはない

夜中にはこんこんと眠り

いつしか森と一体になり

眠りの中でも食欲に

森の暗さをたぐりよせる

やがて

手も足も首も胴体も

ばらばらになって

もつと深い闇の底まで眠りつくし

誰かに捨て置かれた死体さながら

アバラ骨は

すっかり闇に寄り添い

生態系の下まで来たと思えるほど

眠る快感は他にはない

森の耳「黒アゲハ」

抜けるような青空に

黒い影がぬーとかぶさり

気配を感じて

見上げる

細い触角が二本

空にむかって伸びている

それはあきららかに黒アゲハ

ガラス玉のような

清らかな目で

私をじっと見下ろしている

それにしてもでかい

ジャンボジェットの影かと思った

昨日庭に来てくらくら飛んでいたけれど

まだ開ききらないカボチャの花に

むりやり羽根をたたんで潜り込んだ

あの黒アゲハが

一晩で膨張して戻ってきたのかしら

抜けるような青空に

ぬーと黒い影をつくり

森の耳「真夜中の白鳥」

目は後についている

黒くなった目のまわりを指でなぞり

こわれた鏡の前では

死んだまねをしてみせるが

生きて生きて生き抜いて

夜ごと抜いた羽根を枕に

不可思議な夢を見つづける

目は後ろについているから

首はすこしずつ折れ曲がり

生命線ではけしてない

運命線をおぼつかなく泳ぐ

パズルの湖

目は後ろについている

ときどきそっと手をのばし

遠い夜に棲んでいる

その白鳥に触れなくなる